

高齢者に着目した中山間地域における フードデザート問題 —富山市八尾地域の事例—

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース 人文地理学研究室
11210032 片山 泰熙

1

目次

- ▶ I はじめに
 - 1.問題の所在と既存研究
- ▶ II 研究目的と方法
 - 1.研究目的と研究方法
 - 2.研究地域概要
- ▶ III 調査結果
 - 1.第1回インタビュー調査
 - 2.第2回インタビュー調査
- ▶ IV 八尾地域における食料品店へのアクセシビリティ対策の事例
- ▶ V おわりに

2

I はじめに

- 1.問題の所在と既存研究
 - ▶ 日本における中山間地域の現状
 - 農林業の衰退、若い世代の都市部への流出
 - ⇒集落の過疎化・高齢化
 - ⇒食料品・日用品の商店の廃業・公共交通機関の縮小
 - ⇒買い物難民の増加
- ↓
- ▶ 「食料品アクセス問題」(農林水産省 2012)

3

既存研究

- ▶ 買い物弱者・買い物難民(石原, 2011)
 - ⇒買い物の困難に焦点を当てた研究
 - ▶ フードデザート(以下FDs)の研究
 - ⇒食料品購入機会減少による栄養状態悪化(薬師寺ほか, 2013)
 - ⇒生鮮食品店への近接性の低下による食糧問題(岩間ほか 2009)
- 岩間ほか(2009): FDs発生形態の地域的相違に言及
: 中山間地での研究の蓄積がまだ希薄
- ▶ 移動販売の研究: FDs解消の1手法
 - ⇒土屋・佐野(2011)、浅井・熊谷(2014)
 - 客は購買だけでなくコミュニケーションを求める

4

II 研究目的と方法

- 1.研究目的
 - ▶ 中山間地域の高齢者が相互扶助でFDsに対処(岩間編, 2013)
 - ▶ 疑問: 八尾地域にも同様の現象が確認できるのか?
 - ▶ 研究目的: 八尾地域では地域コミュニティによる相互扶助の精神によって、高齢者の買い物の困難さが軽減されているかどうかを検討

5

▶ 調査対象と聞き取り内容

調査対象 1: 中山間地域5地区の高齢者
調査内容 1: 個人属性・買い物行動

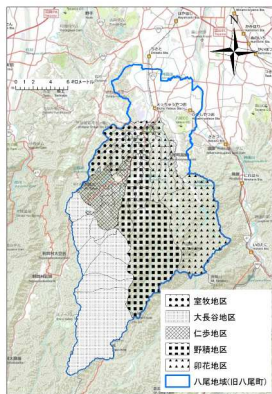
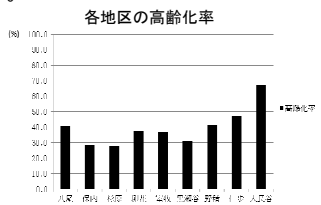
調査対象 2: 地区の代表者
調査内容 2: 住民の生活、地域コミュニティ活動

調査対象 3: 移動販売事業者
調査内容 3: 事業を始めるに至った経緯・狙い・販売ルート・販売品目など

6

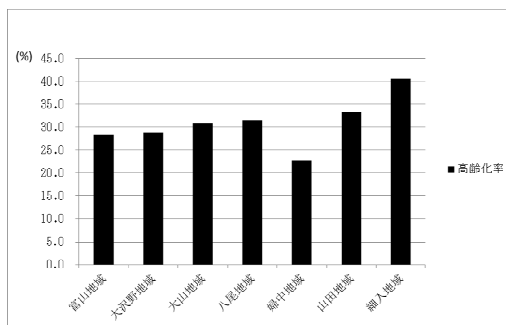
2. 研究地域概要

- 研究対象地域：富山市八尾地域
- 富山市中心部から南西約20km
- 人口20,542人 高齢化率31.5%
- 山間部は川の縁辺に集落が存在し、いずれも高齢人口の割合が高い。



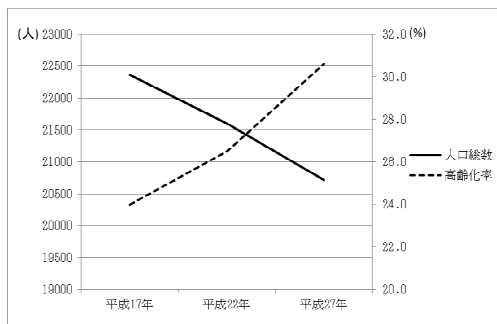
7

富山市各地域の高齢化率



8

八尾地域の高齢化率の推移



9

八尾の人々の買い物の変遷

- 明治期～終戦後
 - ⇒各集落に一つは商店が存在していた。行商人が訪れ、生鮮品を販売していた。
- 1960年代
 - ⇒農協の運営するスーパーマーケットが出店
- 1970年代
 - ⇒モータリゼーションの進展によって、個人商店や農協のスーパーが閉店
- 現在
 - ⇒平野部以外には食料品店は存在しない。

10

Ⅲ 調査結果 1. 調査1

- 1. 調査1
- 計5地区42地点48人の利用者に実施。

(単位：人)

	世帯数	世帯形態	「何へ買い物に行くか」		交通手段		
			一人暮らし	同居	行く	行かない	車
新築地区	10	4	0	0	2	3	0
仁歩地区	9	4	0	0	4	5	0
大長谷地区	7	0	4	0	1	1	0
室牧地区	0	1	0	0	0	4	0
御花地区	10	4	10	10	1	14	1
計	46	18	32	40	8	27	10

(聞き取り調査より作成)

11

調査1の結果

- 高齢者
 - ⇒自家用車、バス、親族・子どもの送迎で麓の食料品店で購買
 - ⇒自らの身体機能・経験を勘案して食料品店を選択
 - ⇒買い物を困難と感じないようにしている。
- 買い物、食事を日々の楽しみの一つと考える高齢者⇒岩間編(2013)の「食品を入手・調理して食べるという手段的自立と能動性の維持につながる」という指摘に合致。

12

2. 調査2

- ▶ 調査対象
 - 野積地区の区長
 - ▶ 調査内容
 - 地区住民の生活や地域コミュニティ活動を質問
 - ▶ 調査結果
 - 隣組から由来する相互扶助の慣習が残存
 - ⇒野菜のお裾分けなど
 - 盛んな地域活動
 - 「野積老人会」
 - …地区を5つに分けてそれぞれスポーツ活動など
 - 「敬老会」
 - …100人以上が地域の祭り・イベントに参加
- 高齢者同士のつながり⇒暮らしの生きがい⇒買い物に対する困難さの軽減。

13

IV 八尾地域における食料品店への アクセシビリティ対策の事例(調査3)

- ▶ 移動販売車による店舗へのアクセシビリティの改善の取り組みを調査
- ▶ 調査対象事業者：株式会社オレンジマート
- ▶ 移動販売事業の目的
 - 中山間地の市民が安心して住み続けることができる環境づくりと地域のコミュニティづくり
- ▶ 助成事業：富山市中山間地移動販売支援試行事業
 - ⇒車両のリース代、燃料費等の補助



14

調査3の調査結果

- ▶ 客単価は平均2000～3000円
- ▶ 利用者の9割以上は高齢者
- ▶ 移動販売車に積載していない商品も用意
- ▶ 一人暮らしの高齢者の安否確認の役割も果たす
- ▶ 現時点では赤字。市の支援も打ち切られた場合、誰が行うのかといった課題がある。

15

V おわりに

- ▶ 八尾地域の高齢者：自家用車、バスを利用し購買
 - ⇒「(食事を含む)買い物は生きがい・暮らしの楽しみ」という意識により困難という思いは軽減されていた

現時点では調査地域の高齢者の生活を通じて明瞭なFDs確認できない

- ▶ さらなる高齢化の段階でどのようなのか検討が必要
- ▶ 今後、様々な分野からの視点による研究も必要であり、FDs問題に対する研究の蓄積がなされることが期待される。

16

参考文献

- ▶ 石原武政 2011. 小売業から見た買い物難民. 都市計画 60(6) : 46-49.
- ▶ 岩間信之 2011. フードデザート問題－地理学の視点からの分析 都市計画 60(6) : 8-11.
- ▶ 岩間信之・田中耕市・佐々木緑・駒木伸比古・齊藤幸生 2009. 地方都市在住高齢者の「食」を巡る生活環境の悪化とフードデザート問題―茨城県水戸市を事例として―. 人文地理61(2) : 28-44.
- ▶ 岩間信之編著 2013. 『フードデザート問題―無縁社会が生む「食の砂漠」―』. 一般財団法人農林統計協会.

17